

伊集院保健所感染症情報

2026年第31週（令和8年7月27日～令和8年8月2日）

【お問い合わせ先】 ☎899-2501 鹿児島県日置市伊集院町下谷口 1960-1 鹿児島地域振興局保健福祉環境部（伊集院保健所）

TEL (099) 273-2332 / FAX (099) 272-5674 / E-mail kago-kenko-shippei@pref.kagoshima.lg.jp

鹿児島地域振興局 URL <http://www.pref.kagoshima.jp/ak01/chiiki/kagoshima/index.html>

定点把握感染症

定点医療機関【ARI2（インフルエンザ・COVID）、小児科1、基幹定点1】

疾患名	警報基準値		注意報	伊集院保健所管内					県	
	開始	終息	基準値	第28週	第29週	第30週	第31週	先週からの増減	第30週	前週からの増減
ARI（急性呼吸器感染症）	—	—	—	117.50	100.00	67.00	81.50	↗	44.33	↘
インフルエンザ	30	10	10	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.07	↘
COVID-19	—	—	—	33.50	19.50	5.50	3.50	↘	3.28	↘
咽頭結膜熱	3	1	—	0.00	0.00	1.00	0.00	↘	0.65	↘
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	—	2.00	2.00	5.00	6.00	↗	1.32	↘
感染性胃腸炎	20	12	—	0.00	0.00	1.00	0.00	↘	2.87	↗
水痘	2	1	1	0.00	0.00	1.00	0.00	↘	0.29	↗
手足口病	5	2	—	10.00	0.00	3.00	2.00	↘	1.39	↘
伝染性紅斑	2	1	—	2.00	2.00	0.00	0.00	→	0.13	↘
突発性発しん	—	—	—	0.00	2.00	1.00	0.00	↘	0.29	↘
ヘルパンギーナ	6	2	—	0.00	0.00	0.00	1.00	↗	0.19	→
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.10	↗
R S ウイルス感染症	—	—	—	1.00	3.00	1.00	2.00	↗	1.61	↘

※警報域：太文字で赤色の塗りつぶし、注意報域：太文字で黄色の塗りつぶし

TOPIC

鹿児島県子ども予防接種週間について

令和8年8月1日（土）～8月8日（土）

県では、8月4日を「はしかの日」とし、同日を含む1週間を「予防接種週間」と定めています。予防接種で予防できる病気もあります。接種したか確認しましょう。

【定期予防接種】

五種混合（ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ・Hib）、MR、BCG、日本脳炎、Hib、小児用肺炎球菌、水痘、B型肝炎、ロタウイルス、HPV等

※（特に注意）麻しん風しん混合（MR）の予防接種対象者

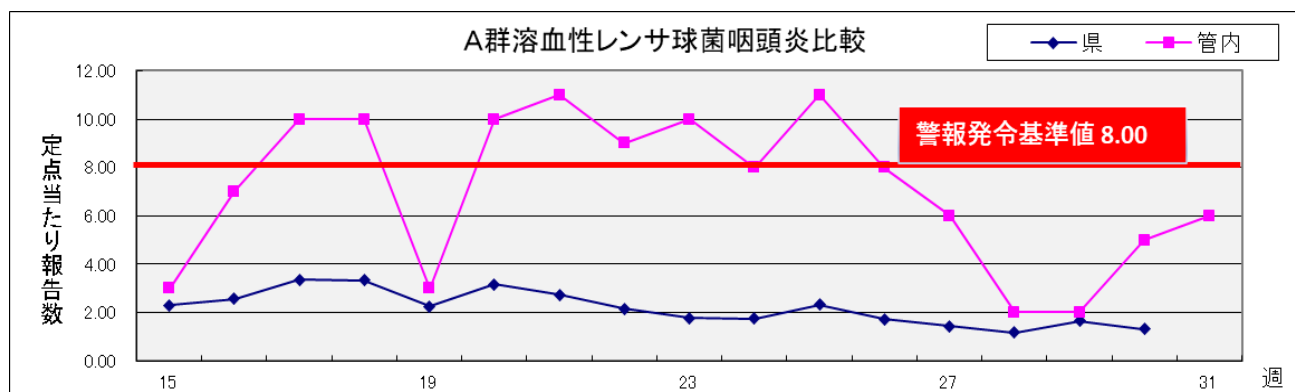
1期… 1歳の子ども

2期… 今年度6歳になる者（小学校就学前1年間）

- 予防接種希望者は、必ず事前に予約をしてから医療機関を受診してください。
- 定期予防接種を受ける際は、市町村より届いた説明書等を必ずお読みください。
- 母子手帳と予防接種予診票を必ずご持参ください。

● 注意すべき感染症

・ A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎



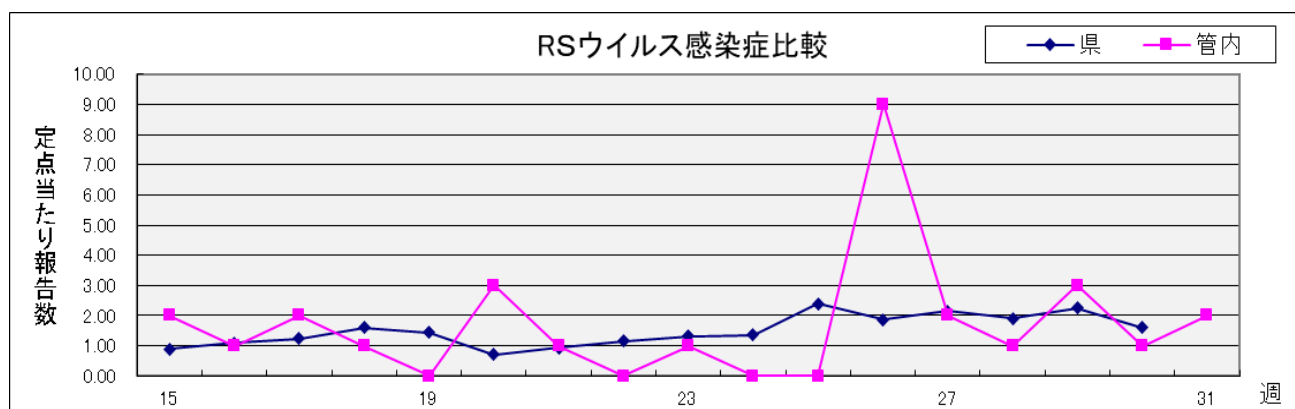
第31週の伊集院保健所管内におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は、6人でした。年齢別では、6歳(3人)、4歳・5歳・9歳(各1人)の報告でした。

感染すると、2～5日の潜伏期間を経て、突然の発熱や全身倦怠感、咽頭痛で発症し、舌が莓のように赤くザラザラとした状態になることもあります。

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことによる「飛沫感染」、あるいは、細菌が付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」が主な感染経路です。

患者と濃厚接触を避け、手洗い、咳エチケットなどの一般的な予防法を励行しましょう。

・ RS ウイルス感染症



第31週の伊集院保健所管内におけるRSウイルス感染症の報告数は、0～5ヶ月(1人)、6～11カ月(1人)の定点あたり2.00でした。

RSウイルス感染症は、急性の呼吸器感染症で、年齢を問わず何度も感染を繰り返しますが、初回感染時には、より重症化しやすいといわれており、特に生後6ヶ月以内に感染した場合には、細気管支炎や肺炎など重症化することがあります。

潜伏期は2～8日とされ、発熱、鼻汁、咳などの上気道炎症状が数日続きその後、場合によっては、気管支炎や肺炎などの下気道症状が出てきます。感染経路は、感染した人の咳やくしゃみなどによる飛まつ感染と、ウイルスの付着した手指や物などを介した接触感染といわれています。

予防対策は、鼻汁、咳などの呼吸器症状がある場合はマスクが着用できる年齢の子どもや大人はマスクを使用する、手洗いや手指衛生といった基本的な対策の徹底を行うことが大切です。

また、60歳以上を対象としたワクチンと、生まれてくる子どもの予防を目的とした妊婦さんを対象としたワクチンもあります。

○学校における感染症による出席停止の状況7/27～8/2(出典：学校等欠席者・感染症情報システム)

今週の報告は、ありませんでした。